

ちほの おしゃべりタイム



デ イ ジ ー 図 書



オフィスPrima 代表
フリーアナウンサー
ビジネスマナー講師

とおる ち ほ
透 千保

東海地方の各放送局(岐阜放送/ぎふチャン、FM Gifu、東海ラジオ、メ〜テレなど)で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話対応などの研修講師を務め、人材育成に取り組んでいる。

「あなたの声が誰かの目になる」そんなキャッチコピーに惹かれて、岐阜県図書館で活動する音訳団体に参加しています。音訳とは、本を音読し録音することで、視覚障害や識字障害のある方の目の代わりとなって本の内容を伝えることです。

岐阜県図書館では、「視覚障がい者サービス協力者」という名称で、約30名の音訳者が「せせらぎの会」に所属し、主に視覚障害の方たちに本を読む「対面読書」や「録音図書の作製」、個人の音訳依頼に応える「プライベート録音」などの様々な活動をしています。

私がいま取り組んでいるのが「録音図書の作製」です。パソコンに録音された内容は校正を重ねて編集され、「デイジー (DAISY : Digital Accessible Information System)」という規格を用いた「デジタル録音図書」となります。かつては、オープンリールやカセットテープで録音されていたそうですが、音訳の世界でもデジタル化が進んでいるのですね。このデジタル図書は国立国会図書館のデータベースに載せられ、視覚障害などの方たちがデータをダウンロードしたり、図書館にあるCDを借りるなどして利用しているそうです。デジタル録音図書は、好きな箇所を検索して自由に聞くことができるため便利な媒体なのです。

この活動にアナウンサーとしての経験が役に立つと思っていたのですが、やってみると朗読やナレーションとは違い、とても難しいことだと感じました。利用者が自由に解釈や想像を展開することができるように、正確な読み・発音・アクセントは遵守しつつも、過度な感情や抑揚は抑制して淡々と読まねばなりません。また、表やグラフ、写真などを言葉だけでどのように説明すればわかりやすいのか、悩みは尽きません。聴き手にとって親切だと思ってつけ加えた情報が、かえって文を複雑にさせ内容をわかりにくくさせてしまうこともあります。

こうして、視覚に障害がある方について理解を深めていく中で、岐阜盲学校の先生とラジオで対談する機会がありました。白杖を持った方を見かけた時、これまでは何と言葉をかけてよいのかわからず、見守ることしかできませんでした。「何かお手伝いしましょうか？」の一言で構わないと聞き、ことさら構えず普通に接すればよいのだと気づきました。

その後、偶然、駅でその先生と再会した際には、自信を持って誘導の声がけをすることができたのです。全盲でありながら、スマートフォンの読み上げ機能を自在に操り新幹線でどこへでも行くアクティブな先生なのですが、その姿を思い浮かべながら音読すると、言葉に光が差すような気がするのです。さて、私が音読したデジタル図書を聴いていただけるのはどのような人なのでしょう。想像すると、とても楽しみです。